



キヤッシュレス先進国―北欧諸国の動向 ⑬

国際社会経済研究所(NECグループ)主任研究員

大平 公一郎



課題を解決

小売店などで商品やサービスなどを購入する時、最も一般的な支払い手段は現金だろう。現金には、相手に必ず受け取ってもらえ、支払いと同時に決済が確実に完了する利点がある。しかし、現金の利用状況を完全に捕捉することは難しく、脱税など犯罪に結びつ

きやすいほか、流通・保管にコストがかかるなど課題もある。こうした課題の解決を指して、カード(プリペイド、デビット、クレジットカード)や小切手、銀行送金、最近ではスマートフォンを利用したモバイル決済など、現金を使わないキャッシュレス決済の

1990年代初頭の約60%から2015年には約20%まで低下し、一方でカード決済率が約80%まで上昇している。実際、小規模店舗や地下鉄の自動券売機、シェア自転車などあらゆる場面でカード決済が普及し、筆者は

利用が世界的に進んでいる。4月には爆発的に伸びる中国のQRコード決済に触れたが、デンマーク、スウェーデン、ノルウェー、フィンランドの北欧諸国もキャッシュレス先進国である。

現金利用20%

デンマークでは、小売店舗での現金利用が加えて、Danke

カード決済あらゆる場面

カフェの決済端末(コペンハーゲン)



デンマークでは、SAなど国際ブランドに加え、Danke

費用負担の問題から対

rt(ダンコート)と応ずる店舗が増えないという国内独自のデビットという課題があるが、トカードが普及し、16 Dankeでは加

年末の発行済み枚数は、加盟店から徴収する手数料全人口に匹敵する規模を安く抑え、対応店に至っている。カードの増大を達成した。

決済では、手数料などまたフィンランドで

けるカード決済の比率は80%に至り、カード対応をしない小売店舗は商売が成り立たない。

コンタクトレス

一方、カード決済の新しいトレンドに、コ

普及がある。近距離無線通信を使い、日本の電子マネー同様に読み取り機に触れることで決済ができ、デンマークやフィンランドでも利用が急速に拡大している。一足飛びにモバイル決済に移行している

人間で手軽に送金ができるP2P送金サービスが普及し、デンマークのMobilePay(金曜日に掲載)